

## 第2回教育委員会所管社会教育施設指定管理者選定委員会の結果

1. 日時 : 令和5年9月22日(水) 10:00~11:30
2. 場所 : 岩手県民会館4階 第2会議室
3. 出席者 : 岩 舘 智 子 委員  
遠 藤 可奈子 委員  
大 橋 清 司 委員  
林 謙 志 委員  
(平委員 欠席)

### 事務局

総括課長	小 澤 則 幸
主幹兼生涯学習担当課長	菊 池 剛
主査	猿ヶ澤 茂 樹
主査	村 松 純 子
社会教育主事	浅 沼 公 紀
岩手県立図書館	
副館長	菊 地 幸 男
主任主査	佐 藤 奈津子

### 申請者

株式会社図書館流通センター

## 会議結果

対象施設：岩手県立図書館

(400点満点)

選定の可否	団 体 名	得 点
可	株式会社図書館流通センター	366

### (講評要旨)

株式会社図書館流通センターは、現行の管理受託者として設置目的をよく理解し、管理運営の充実、環境の整備、経費節減など適切な運営に努めている。特に、来館者のニーズに応えるための各種行事の工夫や広報・企画展の充実、より質の高いサービス提供を目指すための職員研修体制が充実している点が評価できる。

なお、現状に満足することなく県民のニーズに応える業務運営や関連施設とのより一層の連携に期待する。

## 会議録

【以下、プレゼン後の質疑等】

委員

利用者数の増減は。閲覧している方もカウントしているのか。

申請者

入館者数は入口でカウントしている。令和2年度はコロナ前の65%程度の入館者数。その後はコロナ前の90%前後まで回復してきている。

委員

入館者数の理想、目標は。

申請者

40万人程度を目標としている。

委員

職員配置について、司書有資格者数74%ということだが、キャリアアップのための研修とはどのようなものか。

また、資料があればキャリアアップの実績と併せて教えていただきたい。

申請者

キャリアアップについては、入社後でも働きながら司書資格をとれるようにしている。

関連会社が作成する研修のコンテンツを活用し、参集しなくても受けることができるような態勢を整えており、全員がいずれかの研修を受講することとし、人事制度（昇給）と紐づけて実施している。

マネジメントができる責任者の研修受講を奨励しており、本人の意向も踏まえながら責任者に登用している。

委員

採用は岩手県出身者が多いのか。

申請者

現在の職員は全員岩手県出身者である。

委員

子どもたちが読みたい本をどのように選書しているか。

申請者

資料の選定は県が行っており、当方はカウンターでの日々の利用動向を見ながら選書の参考となる情報を提供している。

子どもたちは、気に入った本を繰り返し手に取ることが多いが、発達段階に応じて様々な絵

本に触れてもらえるよう展示を工夫したり、イベント的に本をお勧めする取組みとして、様々なジャンルの本を「本の福袋」として一つの袋に入れ出会った本を読んでもらう企画の実施や、岩手日報のジュニアウィークリーに司書が選定した本を掲載するといった取組も行っている。

委員

PDCA サイクルの Check の部分について、現在、「課題」と捉えていることはあるか。

申請者

利用者対応について、来館者に対しての親切な対応の徹底。

業務への「慣れ」によりサービス業務の基本が疎かにならないよう、シフトの見直し等により、初心に戻ってサービスに関して全職員が共通意識で行えるように努めたい。

また、司書サービスについては、ネット環境の普及の影響も踏まえて、子どもたちへのサービスに重点を置いている。

委員

SNS の広報への活用状況について。

申請者

旧 Twitter のアカウントを取得して普段の業務を配信している。

HP、紙媒体も使用して広報を行っている。

Twitter には動画をあげることもできるので、広報の内容を考えて SNS、紙媒体を使い分けている。

#### 【候補者選定について協議】

採点、協議の結果、株式会社図書館流通センターを指定管理者の候補者として適当と認めると決定した。

以上